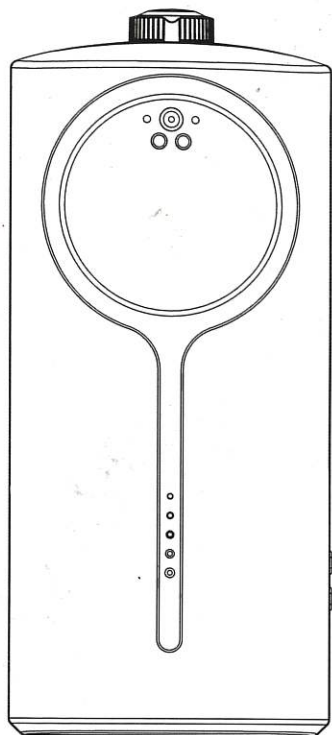
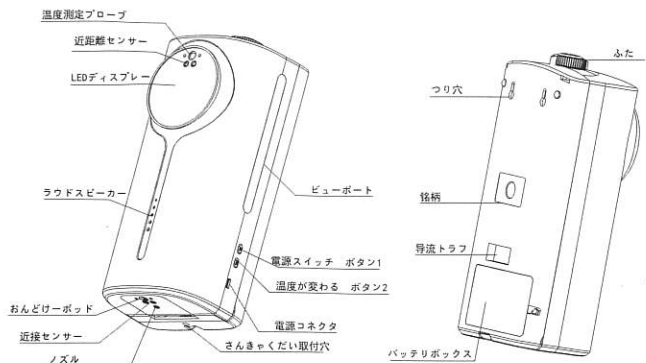


自動ソープディスペンサー



K9 Pro Dual

外形



仕様

1. 精度: $\pm 0.2^{\circ}\text{C}$ ($34 \sim 45^{\circ}\text{C}$, 操作環境に30分の前に使用)
2. 警報型: びかびか+ディ
3. 距離: 2cm-8cm
4. led表示: 番号
5. コネクタ: e型
6. 容量: 1200ml
7. インストール型: 壁掛け式, さんきゃくだい固定
8. 動作温度: 10°C - 40°C (15°C - 35°C Cおすすめ)
9. 測定範囲: $0\text{--}50^{\circ}\text{C}$
10. 応答時間: 500ms
11. 待機時間: 5 sは働かない, 動的ループ, ホワイトライト
12. 電源供給: DC5V200mA (単5形電池4本または18650電池2本)
13. サイズ: $122*132*310\text{mm}$
14. ハンドソープタイプ: ハンドソープ消毒剤

状態説明

1. 待機: 右下の白い点が交互に点滅する



(Fig. 1)

2. 正常温度: 現在の温度を表示し、緑色のランプを1回点滅
3. 温度異常: 現在の温度を表示し、表示画面が赤で点滅する。



(Fig. 2)



(Fig. 3)

4. 測定範囲外 (注意: 噴霧ハンド消毒剤を使用しないでください); H 1超高温温度警報)



(Fig. 4)

指示内容

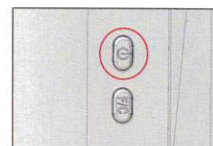
1. 温度測定と手洗い: 手の底に「Di」の音が聞こえるまで、LED画面に温度とハンドソープが押し出される。



(Fig. 5)

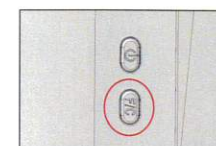
2. キー機能

(1) ボタン1を押すと機能設定



(Fig. 6)

(2) ボタン2を押すと具体的な機能設定



(Fig. 7)

3. 関数の設定

押す: ボタン①一回をねじる、温度単位を設定する
押す: ボタン②をねじ、摂氏度と華氏温度の切り替え
C: 華氏温度 F: 摂氏温度 (Fig. 8, Fig. 9)



(Fig. 8)



(Fig. 9)

ボタン①を2回押して運転モードを設定する
 ボタン②を押して運転モードを切り替えるb0d: ボディモード [0]: カウントモード 5U: 表面モード



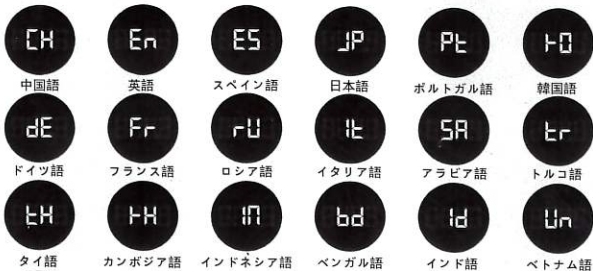
ボタン①を3回押して警報温度を設定する
 ボタン②を押すと37.3℃~39℃のアラーム温度を切り替えることができる。



ボタン①を4回押して音量を設定する
 ボタン②を押して、U 0からU 4に音量を切り替える。



ボタン①を5回押して言語を設定する
 ②ボタンを押して、ch/en/ES/P/Ptなどの言語を設定する。



OFF

噴霧

ボタン①を6回押してハンドソープの押出量を設定する
 ボタン②を押すと、押し出し時間を0.1~2.0秒に設定する。



ボタン①を押したまま①2秒以上: オン/オフ
 以上の設定が完了したら、画面が表示されるまでボタン①を押し続ける必要がある [00] として設置が完了し、マシンの準備が完了する。

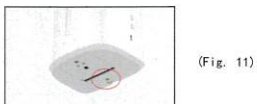


(Fig. 10)

4. マシンのセルフクリーニングモード: 水をマシンに入れ、同時に①、②を5秒間押し続けると、ポンプは自動的に10秒間運転する。

インストール手順

(1) さんきょくだい取付: 底部にネジを接続するとさんきょくだいを接続できる。



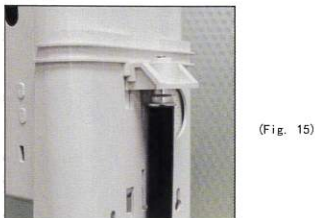
(Fig. 11)

(3) 卓上スタンド: ソープディスペンサーを置くときに使用する。



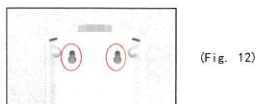
(Fig. 13)

(5) デスクトップブラケットをさんきょくだいにぶら下げる。



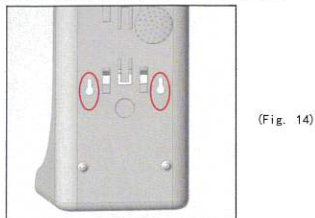
(Fig. 15)

(2) 壁処理: 上面に2つの処理穴がある表面を釘で固定できる。



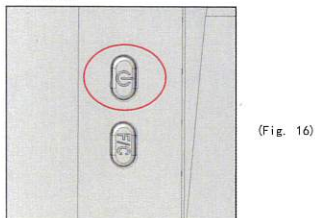
(Fig. 12)

(4) 壁掛けデスクトップブラケット: 2つの処理方法がある。背面の穴を釘で固定することができる。



(Fig. 14)

(6) 電源オン/オフ: 右側のスイッチボタンを押す。(デバイスの側)



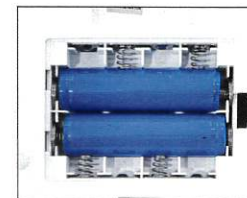
(Fig. 16)

(7) 電池の取り付け: 電池ボックスの蓋を開けて単5形電池4本または18650電池2本を入れる



(Fig. 17)

OR



(Fig. 18)

ヒント&警告

1. 温度測定プローブや近接センサーにハンドソープを入れしないでください。
2. ハンドソープを入れた後、直立していることを確認する。
3. 初回使用時に、液体が流出するまで、誘導ゾーンの下に手を置いて5~8回誘導する。
4. 粘性液体を使用しないでください。そうしないと、機械内部のパイプを塞ぎやすくなる。そして、セルフクリーニングモードの不定期を使用する。